



関西広域連合



公益社団法人
関西経済連合会

第7回「関西スポーツ応援企業表彰」の受賞企業・審判員決定について

関西広域連合・関西経済連合会では、従業員のスポーツ活動の促進に向けた取り組みやスポーツ分野における社会貢献活動を通じ、スポーツ振興や地域活性化に貢献している企業等を表彰する「関西スポーツ応援企業表彰」を行っています。

この度、第7回「関西スポーツ応援企業表彰」の受賞者を下記のとおり決定しました。

記

1. 受賞企業

- < 大 賞 > 株式会社 NTT データ関西
- < スポーツ振興賞 > 明治安田生命保険 相互会社
- < 地域振興賞 > 南海電気鉄道 株式会社
- < 健康経営賞 > 株式会社 日吉
- < 特 別 賞 > 株式会社 サンコー

2. 受賞審判員

社会福祉法人 健祥会	井内 宏隆 氏	(徳島県ゲートボール協会 推薦)
社会福祉法人 桜梅会	大倉 直也 氏	(南丹市陸上競技協会 推薦)
本田技研工業 株式会社	久嶋 道弘 氏	(三重県カヌー協会 推薦)
海南市役所	楠本 智子 氏	((一財)和歌山陸上競技協会 推薦)
日本郵便 株式会社	黒川 直樹 氏	((一財)大阪府バスケットボール協会 推薦)
生晃栄養薬品 株式会社	竹長 泰彦 氏	((一社)福井県サッカー協会 推薦)

※受賞者の概要と受賞理由、関西スポーツ応援企業表彰の概要については、次頁以降を参照ください。

「関西スポーツ応援企業表彰」の概要

(1) 表彰制度の目的

従業員のスポーツ活動の促進に向けた取組やスポーツ分野における社会貢献活動等を通じ、スポーツ振興や地域経済活性化に貢献している企業、および、健康経営の実践による従業員の健康維持・増進に取り組んでいる企業と企業所属の審判員を「関西スポーツ応援企業」として表彰し、広く周知することにより、企業におけるスポーツ活動を推進するとともに、スポーツへの参加に対する社会的機運の醸成、スポーツを支える審判活動の重要性の周知を図り、「生涯スポーツ先進地域関西」の実現を目指す。

(2) 表彰対象

関西の2府8県（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、三重県、福井県）に本社・支社または事業所が所在する企業、社団法人、学校法人等

(3) 各賞の評価の視点

大 賞	スポーツ振興賞・地域振興賞・健康経営賞の1位から選定（「大賞」に選ばれた賞は、2位を繰り上げ）
スポーツ振興賞	スポーツ振興への取り組みを評価。特に継続性や独自性、参加者数を優位に評価する。
地域振興賞	スポーツを通じた地域貢献への取り組みを評価。特に取り組みの継続性や独自性を優位に評価する。
健康経営賞	自社社員の健康増進のためにスポーツの実施促進への取り組みを評価。特に取り組みの継続性や独自性、参加者数または社内への浸透度合いを優位に評価する。
特 別 賞	大賞と上記3賞以外の企業から、「特徴のある取り組み」を評価。特に企業規模が小さい企業を優位に評価する。
審判員表彰	競技団体毎に何れか1項目以上に該当する方 ア 国際大会での審判実績 イ 全日本選手権等、全国大会規模の大会での審判実績 ウ 活動期間合計10年以上

(4) 選考委員会 委員（委員は氏名 50 音順）

委員長	山口 泰雄	（神戸大学名誉教授）
委員	伊坂 忠夫	（大学スポーツコンソーシアム KANSAI 会長）
委員	小倉 陽子	（関西広域連合スポーツ部長）
委員	鈴木 桂治	（全日本柔道男子監督）
委員	巽 樹理	（アーティスティックスイミング元日本代表）
委員	野崎 治子	（関西経済連合会スポーツ振興委員長）
委員	森 健夫	（ワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会事務局長）

第7回「関西スポーツ応援企業表彰」

受賞企業の取り組み

大 賞

「関西を拠点としたスポーツ振興と持続可能な社会づくりに取り組む挑戦」

(本社：大阪府大阪市)

事業・活動内容

- ・アスリートが活動を継続する為に、ファンと気軽に繋がることができ、資金支援も可能となる「GOATUS（ゴータス）」という新たなSNSアプリを2024年12月にサービス開始。
- マイナースポーツに取り組む選手や地方在住の選手は、日々のトレーニングや大会遠征に必要な費用を自己負担しているケースが多く、競技を継続するための経済的ハードルが非常に高い状況にある。GOATUSは、ファンが応援するアスリートに対して、定額型で支援（min550円/月）を受けることで、将来の収入を見込んだ計画的な活動が可能な仕組みを構築。
- 特別な会員カードの発行やアスリートがファンの投稿をシェア出来る等の独自機能も搭載。徐々に全国展開しており、規模拡大中。
- また、次世代アスリート育成を企図して、近畿大学体育会の14クラブがGOATUSを活用し、遠征費用や活動費の一部を賄えるよう支援。注目されづらいアスリート支援、次世代への貢献、ファンとの交流イベント開催といった地方活性化に総合的に寄与するような本活動は、前例のない取り組みである。
- ・社内では、自社開発し大阪府に提供している健康サポートアプリ「アスマイル（歩数によりポイント獲得/健康コラム等）」を活用したウォーキングイベントを開催。また、2025年1月には外部企業を招き体力測定を実施。その他にも、スポンサー支援を通じて、社内で観戦ツアーの企画やスポーツ意欲の醸成にも取り組んでいる。
- ・健康経営、地方活性化、アスリート支援と総合的に取り組んでいる企業である。

【GOATUS（ゴータス）アプリ】



【ファン交流イベントでのプレゼント配布】



【健康サポートアプリ】



スポーツ振興賞

「スポーツ支援を通じた健康増進・地域貢献～2「大」プロジェクトにおけるスポーツ協賛～」

(本社：東京都 支社：大阪府大阪市)

【JLPGA】

事業・活動内容

・「みんなの健活プロジェクト」「地元の元気プロジェクト」の2「大」プロジェクトを全社横断の取り組みとして展開し、中でもスポーツ支援を通じた健康増進・地域貢献に積極的に取り組んでいる。また、「こどもの健全育成」を優先課題として設定し、未来を担うこどもたちのために持続可能で豊かな社会づくりに向けて「未来世代応援活動」を推進。その一環で、スポーツ・地域の交流を通じたこどもたちの健全育成を目的に、4つの取り組み（※下記ご参照）を実施。

- ①未来世代応援アクション with カズ：三浦知良選手のメッセージとサッカーボール寄贈
- ②未来世代応援アクション with Jリーグ：小野伸二選手によるSDGsサッカー教室の開催
- ③未来世代応援アクション with JLPGA：ゴルフ教室やゴルフ大会の職業体験
- ④未来世代応援アクション with バドミントン協会：大会協賛および桃田賢斗選手、永原和可那選手らゲスト講師によるバドミントン教室の開催

・全国を網羅する営業拠点、および従業員ネットワークを活かして、地域の自治体や企業・団体と連携して取り組みを実施することで「地方創生の推進」への貢献を実施。Jリーグチーム60クラブと個別にスポンサー契約を締結し、各地でスポーツイベント開催やJリーグの現役選手やOB選手と共にウォーキングを行う、Jリーグウォーキングを開催。誰でも気軽に参加できるイベントとして、2024年には157回実施する等、日本全国でスポーツの盛り上げに寄与する活動を行っている。

・健康増進の分野では、日本赤十字社と協働し、献血や循環器病に関して各イベント会場でブース出展し啓発活動を行っている。特に、関西圏においては、一般社団法人ジュニアゴルフクラブチーム連盟主催のジュニアスポーツフェスティバルに特別協賛し、未来世代であるこどもたちにさまざまなスポーツを体験できる機会を提供するとともに、「健活ブース」を出展して来場者の健康意識を高める取り組みを実施している。



【Jリーグウォーキング】



【ジュニアスポーツフェスティバル】



地域振興賞

「eスポーツを通じた地域活性化」

(本社：大阪府大阪市)

事業・活動内容

・2021年に新規事業の一つとしてeスポーツ事業に着手。2022年度～2024年度の中期経営計画「共創140計画」における主な事業戦略の一つである“新たな事業創造「未来探索」”の打ち手として、eスポーツ事業へ本格参入。以降、継続的に事業を推進。

・2021年にeスポーツ体験型ショールームである「eスタジアムなんば Powered by NANKAI」を、南海なんば駅直結の商業施設なんばスカイオに開業。2024年には、なんばパークスに移転し、「eスタジアムなんば本店」をグランドオープン。従来のeスポーツエリアだけでなくゲームクリエイター教室なども併設し、教育の場としても事業を展開。

・泉佐野市eスポーツMICEコンテンツ実証事業の事業受託者として、次世代人材育成・地域活性化を目的とした、高校生対象の強化合宿イベント「eスポーツキャンプ（2022年、2023年）」や、小中学生を対象とした職業体験型イベント「eスポーツゲームクリエイターアカデミー（2024年、2025年）」を実施。

泉佐野市をはじめ、和歌山県など各自治体と連携した取組みにより地域活性化に貢献。

・南海なんば駅前エリアには、地域住民・来街者の新たな交流の場として、行政や地域と協働し、「なんば広場」を誕生させた。上質で居心地の良い空間として、来街者や消費活動の増加も見込め、地域経済の活性化に寄与する事業となっている。

【eスタジアムなんば 本店】



【eスポーツキャンプ】



【eスポーツゲームクリエイターアカデミー】



健康経営賞

「アスリートの雇用・支援および社員の健康活動促進」

(本社：滋賀県近江八幡市)

事業・活動内容

・スポーツを通じた企業文化の醸成と地域社会への貢献を目的として、アスリート社員（現在3名）を採用。日常業務に加え、陸上競技をはじめとする競技活動を積極的に支援し、多様性の尊重、会社全体の活性化につなげている。実際のアスリートと日々接する機会を提供することで社員がスポーツを身近に感じ、始めるきっかけにもなっていると同時に、アスリートのセカンドキャリア支援にも繋がっている。

・社員一人ひとりの健康意識を高める取り組みとして、健康経営支援サービス付き自動販売機（※専用アプリと連携することで、運動や日常的な健康行動を支援するサービスが利用可能）を設置。加えて、昨年度は社内ヨガ教室を開催し、今年度には外部より講師をお招きし、健康に関する社内セミナーを行うなど、社員が気軽に健康増進に参加できる環境を整備。また、社内報において、継続的に健康や運動に関する情報を発信している。この長期的な取り組みにより、社員が自発的に中長期的に健康活動への取り組み風土づくりを推進している。

・地域社会への貢献として、毎年継続的に地域の学校や子供たちの参加するスポーツ大会へ協賛を行っており、企業の社会的責任を果たしつつスポーツ文化の発展にも寄与している。また、地元のバスケットボールチームへの支援も行っており、滋賀県の活性化にも寄与している。

【アスリート壮行会】



【社内報】



特別賞

「スポーツ分野への総合的支援、健康経営の促進」

(本社：和歌山県海南市)

事業・活動内容

・和歌山県内のソフトボールチームやサッカークラブ、eスポーツプロクラブ等スポーツチームを多数支援、協賛し、スポーツで地域を盛り上げるためのイベントなどを企画・運営するなど、競技スポーツのみならず生涯スポーツの推進にも貢献している。また、アスリート雇用も行っており、アスリート個人への支援も行う。

・毎年3月には当社が冠スポンサーをつとめるソフトボール大会を企画しており、県内だけではなく大阪や姫路といった関西全域の社会人チームが参加している。

・ソフトボール部の強化合宿の公開練習を実施するなど、県内でのソフトボール競技の競技力向上及び普及活動に貢献している。地方という地理的ハンデにより他校の情報収集が難しい中、当社が先導して事例を展開することで県内全域で活性化している。また、片男波海水浴場のゴミ拾いや、伊太祈曽駅での電車掃除イベントとeスポーツ体験のコラボで集客や知名度向上に貢献している。

・社員自らが大会運営に関わることで、地域の方々とともに盛り上がり、地域と一体となる大会づくりを目指している。また大会の賞品として物品提供も行っている。

・会社として、SDGsの取り組みの一環で、参加チームを対象に、洗濯用品を活用した予洗い啓発活動を実施することで、道具を大事にすることの大切さについて発信している。

【予洗い啓発活動】



【ゴミ拾いとeスポーツの融合イベント】



健祥会グループ

井内 宏隆

▶ 保有資格

- ☐ ゲートボール国際審判員
- ☐ ゲートボール1級審判員 他

▶ 活動期間

- ☐ 25年

▶ 主な審判実績

- ☐ 2024 第8回アジアゲートボール選手権大会
- ☐ 2023 第35回全国健康福祉祭えひめ大会
- ☐ 2025 文部科学大臣杯第41回全日本ゲートボール選手権大会
- ☐ 2025 公益財団法人日本ゲートボール連合杯 四国地域ゲートボール選手権大会
- ☐ 2025 わたSHIGA輝く国スポ2025ゲートボール公開競技四国地域予選会



社会福祉法人 桜梅会 桜梅園

大倉 直也

▶ 保有資格

- ☐ 世界陸運NTO（National Technical Official）
- ☐ 日本陸上競技連盟A級公認審判員

▶ 活動期間

- ☐ 13年

▶ 主な審判実績

- ☐ 2021 東京オリンピック競技大会陸上競技審判員
- ☐ 2022 ジャパンパラ陸上競技大会
- ☐ 2022 第91回 日本学生陸上競技選手権大会
- ☐ 2025 全国高等学校駅伝競走大会
- ☐ 2025 皇后杯 全国都道府県対抗女子駅伝



本田技研工業 株式会社

久嶋 道弘

▶ 保有資格

- ☐ カヌースラローム国際審判員
- ☐ カヌースラローム・ワイルドウォーターJ級審判員、
カヌースプリントA級審判員

▶ 活動期間

- ☐ 14年

▶ 主な審判実績

- ☐ 2021 TOKYO2020第32回オリンピック バックアップスコアラー
- ☐ 2024 滋賀国スポリハーサル大会 発艇員
- ☐ 2025 カヌースラローム日本代表選考会 ゲート審判
- ☐ 2025 カヌースプリント三重県大会 審判部長
- ☐ 2025 NHK杯 ビデオジャッジ



海南市役所 楠本 智子

▶ 保有資格

- ☐ 陸上競技A級審判員
- ☐ パラ陸上競技審判員 NTO資格 他

▶ 活動期間

- ☐ 14年

▶ 主な審判実績

- ☐ 2022 2022ジャパンパラ陸上競技大会
- ☐ 2023 近畿中学校総合体育大会
- ☐ 2024 第61回近畿地区高等専門学校体育大会
- ☐ 2024 第61回西日本五大学陸上競技対抗選手権大会
- ☐ 2025 第25回和歌山県障害者スポーツ大会



日本郵便 株式会社

黒川 直樹

▶ 保有資格

- ☐ バスケットボール日本協会公認 (B級)
- ☐ 車椅子バスケットボール日本連盟公認 (B級) 他

▶ 活動期間

- ☐ 20年

▶ 主な審判実績

- ☐ 2023 2024 2025 文部科学大臣杯争奪日本車いすツインバスケットボール選手権大会
- ☐ 2022 2023 3×3U18中日本エリア大会
- ☐ 2024 全国障害者スポーツ大会近畿予選 審判長
- ☐ 2025 京都府中丹地区中学校バスケットボール大会
- ☐ 2018以降 3×3JAPAN TOUR、EXE PREMIER (トップリーグ) 担当審判



(一社) 福井県サッカー協会 推薦

生晃栄養薬品 株式会社

竹長 泰彦

▶ 保有資格

☐ サッカー1級審判員

▶ 活動期間

☐ 12年

▶ 主な審判実績

☐ 2023 日本スポーツマスターズ2023

☐ 2024 北信越フットボールリーグ

☐ 2025 明治安田Jリーグ

☐ 2025 JリーグYBCルヴァンカップ

☐ 2025 天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会

